



北浦梨生産の取り組み

明治前期に導入された北浦梨の生産は、その後大きく発展し、明治末期から大正期には「梨の北浦村」と呼ばれるようにまで成長しました。昭和 16 年には栽培面積が 33ha に達した（小牛田町史中巻）とされますが、その後、徐々に農家数、栽培面積ともに減少しはじめ、現在は、農家数 42 名、栽培面積 10.6ha となっています。

北浦地区では、幸水、豊水等の一般的な梨品種のほか、地域独自の品種として、平成 17 年に日本梨の変種として品種登録された「アップー」があります。アップーは果皮色が淡紅色の 9 月下旬に成熟する晩生種で、甘味は高くりんごのような酸味を持ち合わせた梨です。アップル（リンゴ）とペア（梨）を合せてアップーと名づけられ、平成 27 年 4 月時点で 12 戸の農家が栽培しています。

北浦梨は、農家の軒先販売のほかに国道 108 号沿線の直売所、JA みどりの元気くん市場、全農インターネット販売、ゆうパック販売、こごた朝市などで販売されていますが、特に国道 108 号沿線の直売所は、美里町の秋の風物詩となっています。

平成 26 年からは北浦梨をもっと PR しようと「美里町北浦梨フェア」を開催しています。美里町内はもちろん、仙台市内のホテル等の飲食店が参加し、毎年、9 月の 1 ヶ月間それぞれのお店が工夫を凝らした梨料理を提供し好評を博しています。

また、果樹栽培者の高齢化が進む中、若手生産者の中には、北浦梨の歴史を次世代へつなぐため、梨のジョイント栽培や北浦梨のブランド化に取り組む活動を行っています。

（参考資料：平成 29 年 3 月美里町）